

【背景と目指す姿】

- 宇都宮市北西部は、耕地面積の76%を水田が占め、水稻依存の経営体が多い状況。米の直接支払交付金の廃止による所得減少への対応、担い手の高齢化等による農地の出し手増に対応する受け手の確保等が急務。
- 一方、近年当地域内に(株)壮関が食品加工施設及び大谷石採石場を活用したさつまいも貯蔵施設を整備し、さつまいもを原料とする加工食品の製造を開始。
- そこで、当会は、地の利を生かし、(株)壮関との契約取引を基本に、出し手の水田を積極的に受入れ、水稻よりも収益性が高いさつまいもの産地化を目指す。

1 水田における露地野菜転換面積

現状(平成29(2017)年度):0.4ha → 目標(令和2(2020)年度):10ha

2 主な取組内容(平成30(2018)～令和2(2020)年度)

項目	具体的方策
農地集積・集約化	<ul style="list-style-type: none"> ・ほ場見学会や栽培講習会の開催による担い手の確保 ・技術実証による地区のモデルの形成、生分解性マルチの導入等による省力化 ・農地中間管理事業の活用
効率化・省力化	<ul style="list-style-type: none"> ・効率的な機械作業を可能にする作付体系の検討と機械オペレーターの養成 ・管理作業の分業化の検討 ・地元女性を中心にパートを確保 ・冬場の労働力を確保するため、新規品目の導入検討
加工・業務用需要への対応力強化	<ul style="list-style-type: none"> ・契約相手との継続的なコミュニケーションによりウイン・ウインの関係を維持 ・県や市の食品企業需要情報を活用し、新たな販路を開拓 ・キュアリング施設の導入等による周年出荷体制の検討



さつまいも苗移植機



移植機後の苗



収穫されたさつまいも